

私の意見「NHK クローズアップ現代 “夢の原子炉” はどこへ  
～もんじゅ “失格” 勧告の波紋～」

2016.1.27 碓本 岩男

## 1、まえがき

メディアの多くは政府に批判的な報道をする。メディアは必ずしも中立とはいえず、本当に弱者か否かは別として、弱者側の立場で報道をしようとしている。権力者は強者であり、政府が権力を持っているので、権力行使を監視し、弱者を救ける役割をメディアが担っていると自負しているからであろう。このため、政府に理があるような法案であっても、メディアは批判記事を書くことが多い。

ところが、3条委員会になり、規制、許認可に絶対的権力を持つ原子力規制委員会（NRA）の権力行使に対しては、それが明らかに非科学的で不適切な行使で、多くの識者から批判を浴びている<sup>(注1)</sup>という事実があっても、メディアが批判記事を書くことがほとんどない。メディアの多くは、3.11以降の流れで、ともかく原発は悪であって、電力会社は政府と同様に強者と決めつけて記事を書いているからであろう。しかし、今の電力会社は権力を盾とした NRA の横暴に苛められており、NRA に対しては間違いなく弱者なのである。

メディアでも民間の場合には、真実を追求しているだけでは商売にならない場合があり、世論に迎合した内容の記事を書くことも、テレビで放送することもあるのかも知れないが、国民から受信料を取る公共放送の NHK であれば、真実を追求し、中立性を守り、正しい情報を視聴者に提供するのが使命のはずである。

2ヶ月近く前になるが、12月8日にNHKの「クローズアップ現代」で首記の番組が放映された。11月13日付で原子力規制委員会（NRA）が日本原子力研究開発機構（JAEA）の監督官庁である文部科学省（MEXT）に出した勧告を取り上げた番組である。

当会で抗議<sup>(注2)</sup>した2014年12月21日放映のNHKスペシャル「メルトダウン File.5 知られざる大量放出」程の事実誤認、やらせなどのひどさはないものの、NHKが原子力を扱ったこれまでの番組同様に、公正、公平さに欠け、視聴者に真実を伝えようとした姿勢がまったく感じられない番組になっていた。

クローズアップ現代は3月末で打ち切りになるとのことではあるが、12月8日の内容について、その問題点を指摘する。

## 2、番組タイトル

科学的、技術的な問題ではないが、この番組のサブタイトルである「もんじゅ “失格” 勧告の波紋」からして事実ではない。「もんじゅ」失格勧告ではなく「JAEA」失格勧告と

正しいサブタイトルに何故しなかったのであろうか。

NRA が勧告したのは MEXT に対してであり、「もんじゅ」の運転を任せられないとしたのは JAEA という組織である。即ち、「もんじゅ」という高速増殖炉プラントが失格したのではないのであるが、このサブタイトルでは「もんじゅ」が失格したと視聴者が誤解することを狙ったと疑われても仕方がないタイトルであり、悪質な印象操作を行っている。

### 3、間違っているナレーション

NHK スペシャル「メルトダウン File.5 知られざる大量放出」では 50 ヶ所以上に亘って何の根拠もなく、科学的には明らかに誤っているナレーションを流している。

今回のクローズアップ現代でも、事実と異なる NHK の一方的な思い込みでナレーションが作られている。

「ちょうど 20 年前、ナトリウム漏れ事故を起こしたもんじゅ。その後もトラブルや保安規定違反などを繰り返し、ほとんど運転できていません。なぜ、重大な違反が相次いだのか。取材から見えてきたのは、運転再開を急ぐあまり安全を最優先にできなかった組織の体質でした」

上記ナレーションで事実なのは、「ちょうど 20 年前、ナトリウム漏れ事故を起こしたもんじゅ」「ほとんど運転できていません」という箇所だけである。

ほとんど運転できていない本当の理由は、トラブルを繰り返したことでも、保安規定違反を繰り返したことでもないのである。放射能とは直接関係しない 2 次系ナトリウム漏洩事故が安全上どのようなものかの報道は一切されずに、メディアによって事件にされてしまい、技術以外の理由で 10 年という長期に亘って改造工事に着手できなかったこと、軽水炉と同様に、東日本大震災以降の混乱によって止まっていること、が主要因である。保安規定違反については既に述べた<sup>(注1)(注3)</sup>ように、NRA 側の対応に多くの問題があるのである。

保安規定違反の内容も、「重大な」の意味も解説せずに「重大な違反が相次いだ」として、運転再開を急いだという根拠も説明せずに「運転再開を急ぐあまり、安全を最優先でできなかった」と勝手に決めつけたナレーションを作っている。

公共放送である NHK であれば、ほとんど運転できていない本当の理由、保安規定違反としている内容の真実、工学の世界での安全とはそもそもどういふものかを追求するのが義務であり、視聴者への印象操作で反原発に手を貸すようなナレーション作りは猛省すべきである。

「平成 21 年、もんじゅではおよそ 5 万件の機器の点検方法や頻度を定めました。しかし 3 年後、1 万件近くの機器で点検漏れが発覚します。原因はトラブルが起きたときの対処法を決めていなかったことでした」

「点検漏れが起きた 1 つ、非常用ディーゼル発電機。電源が失われた際に原子炉を冷や

すための、極めて重要な機械です」

「非常用発電機は3つあり、16ヶ月に1度点検しなければなりません。その1つの発電機でトラブルが発生。計画通り点検ができなくなる事態が起きました。その時現場は、安全性の根拠がないまま、後で点検すればよいと自分たちで判断。重要な機器の点検が8ヶ月も先送りされたのです。さらにそれをチェックするはずの部署も機能不全。点検漏れの検証を行った担当者は、長期の運転停止で知識も経験も不足していたことが原因だったとしています」

「1万件近くの機器で点検漏れが発覚します。原因はトラブルが起きたときの対処法を決めていなかったこと」についても、これ以降のナレーションの内容を踏まえると間違ったナレーションである。

保全計画とは、本来、運転している状態のプラントを対象に定められるものである。長期休止中の場合には、特別な保全計画を策定し、長期休止が故に運転中とは異なる劣化メカニズムを考慮すると共に、使用しない機器、設備の点検期間（頻度）を延ばすことが行われる。「もんじゅ」で問題なのは、この特別な保全計画に定められる前に機器、設備の点検期間（頻度）を延ばしたことが1万件近くの機器の点検漏れとされた主要因である。即ち、プラントの安全上の問題ではなく、書類上の不備なのである。

しかも、書類上の不備が起こった原因も、旧保安院が、商業用原子力発電炉（軽水炉）を対象としていた保全プログラムを、突然、研究炉でもある「もんじゅ」にも適用としたことによるものである。保全計画の策定に、軽水炉では2～3年の準備期間があったが、「もんじゅ」では数ヶ月の準備期間しかなかったのである。

「点検漏れが起きた1つ、非常用ディーゼル発電機。電源が失われた際に原子炉を冷やすための、極めて重要な機械です」とのナレーションは間違いではないが、視聴者に誤解を与える不適切なナレーションである。

プラントが運転されているのであれば、このナレーションは正しいが、今の「もんじゅ」は長期休止中であり、炉心の崩壊熱も実質0（むしろナトリウムの凍結を防ぐためにヒータ加熱している状態）なので原子炉を冷やす必要はなく、今の休止状態では非常用ディーゼル発電機でも安全上の重要な機器ではないのである。

プラントの運転開始時期が明確になれば、運転開始前にきちんと点検すれば良いのであって、8ヶ月の先延ばしは、安全上はまったく問題ないのである。このため、技術的なチェックに引っかからないのも当然であって、機能不全というナレーションも不適切である。なお、本番組で取り上げた非常用ディーゼル発電機に関する NRA の事実誤認については奈良林教授も指摘している。<sup>(注4)</sup>

このような科学的事実についてはまったく触れず、一方的に JAEA を非難するナレーションに NHK はしているのである。

#### 4、出演する専門家

「報道ステーション」では、憲法学者が専門家のようにエネルギー問題で偏った意見を語り、素人の古舘氏が平気で間違った意見を言っている。専門家としてインタビューされるのは反原発を生業としている大学教授などである。これらは、公正、公平性に欠け、本来は放送法違反であるが、民放なので視聴者は見なければ良いという選択肢がある。しかし、NHKの番組は見なくても受信料を取られており、見なければ良いというだけでは済まないのである。

そのNHKが出演させる（意見を言わせる）専門家も公正、公平に選んだ専門家と思えないことが多い。また、専門家に話させる内容が適切ではない場合も多い。

原子力工学の専門家であっても政治的、政策的問題に関しては専門家ではないので、政治的、政策的問題に関する発言は、教授という立場の専門家の意見ではなく、個人的見解に過ぎないが、あたかも専門家の見解のような番組作りをする。

このNHK番組に出演した専門家は田坂広志教授、宮野廣教授、鈴木達治郎教授である。

田坂教授は原子力工学の博士号を持つ教授であるが、その経歴からは原子力発電プラントというより放射性廃棄物処理が専門と思える。また、民主党政権時代の原子力政策に係っている。番組の後半では、原子力政策についての質問を受け、これに回答している内容は専門家の意見と言えるかも知れないが、番組前半の、NRAのJAEA退場勧告についての意味について問われた以下の発言には疑義がある。

「原子力規制委員会のやっていることというのは、世界の原子力規制の、ある意味では原則にのっとっている訳ですね。どういうことかという、規制委員会は国民の命と安全、健康の観点からのみ判断をする、事業者の都合とか事情を考慮することはない、経済性についても考えることではない。この厳しい立場を貫くのが規制委員会なんです。その意味では、この規制委員会、今回、筋を通されたと思うんです」

この発言は、田坂教授がプラントの保全、安全に関しての知識が乏しいと思わずにはいられない内容である。即ち、NRAの田中委員長の発言をそのまま言っているが、これは世界の規制委員会の立場とはまったく異なっている内容である。

工学で定める安全は、リスク0を求めているのでも、0にするために無尽蔵の費用を発生させて良いとしているのではないのである。原子力発電所という工業製品として、経済的に成り立つ、即ち、国民に過度な負担を掛けない範囲で、他の工業製品のリスクより十分小さくする最大限の安全を要求しているのである。

米国の原子力規制委員会（NRC）は、フィルターベントの規制要求の件<sup>（注5）</sup>でも分かるように、事業者とのコミュニケーションも重要視しているし、経済性についても配慮しているのである。更にNRCの場合には、その強い権限に対しての監視システムもきちんと機能しているのである。

そもそも、「もんじゅ」の保全計画不備問題を番組にするのであれば、日本保全学会などの保全の専門家を番組に出演させるべきであるが、NHKが保全の専門家とは言い難い

3人の教授を出演させたことにも公正、公平性を疑ってしまう。

以前にも書いた<sup>(注3)</sup>が、日本保全学会はNRAに対し、NRA検査はコンプライアンス検査から脱却すべきであり、適合性の状況検査ではなく、原子力安全と言う本質的な視点で工学的安全系の問題を重点的に検査すべきと提言している。今回の「もんじゅ」の問題は正に安全の本質を見ないコンプライアンス（書類上の不備を見つけることだけに注力した）検査であり、NRAという組織がまったく安全の本質を学んでいない組織のままであることも示している。書類審査で厳しい立場を貫くことは、まったく筋が通っていないのである。

**「高速増殖炉というのはナトリウムを使っていますから、ある意味では非常に危険度の高い施設ですね。こういう現場で、これくらいは大丈夫だろうという文化があると、必ず重要な機器についても見落としをやってしまうのですね」**

この発言も専門家とは言えない内容である。「ある意味」と逃げているが、「非常に危険度の高い施設」という発言は、明らかに視聴者に誤解を与えている。

ナトリウムを使っているからこそ、沸点が高く低圧で運転でき、また自然循環による炉心の冷却能力に優れているおり、「高速増殖炉というのはナトリウムを使っていますから、ある意味では非常に安全性の高い施設ですね」とも言えるのである。ナトリウムが活性であるという特徴だけを取り上げて「非常に危険度の高い施設」と言うのは、専門家の発言としては不適切である。また、原子力工学の専門家として意見を求められているのに、今回の「もんじゅ」の保全不備の内容も、「もんじゅ」が長期休止中であるという状況も理解できていないから「これくらいは大丈夫だろうという文化があると、必ず重要な機器についても見落としをやってしまうのですね」とNHK側が求めているシナリオに乗った発言をしてしまうのであろう。

**「オールジャパンという言葉が出たので、あえて申し上げますが、この言葉の危うさもあるんですね。つまり、みんなの責任だという組織でよく起こるのがみんなの無責任ですね。つまり、誰かがやってくれるだろう、誰に最後の責任があるのかは分からない、こういう体制の問題があったということも1つの事実だと思うんですね」**

これもひどい発言である。田坂教授は大きなプロジェクト開発に携わったことがなく、プロジェクト体制というものを知らないのかも知れない。

どんなプロジェクトであろうが、最初にするのはプロジェクト推進（実施）体制の構築である。プロジェクト実施体制というものは、所掌、指揮・命令系統、責任体制を明確にしたものである。少なくとも科学、技術の世界では、国家プロジェクトであろうがなかろうが、オールジャパンであろうがなかろうが、体制が明確でないプロジェクトなどないのである。従って、「オールジャパンという言葉に危うさもあり、みんなの責任だという組織でよく起こるのがみんなの無責任」という発言はまったく的を外れである。

勿論、明確な体制があっても、その体制がうまく機能していないということはあるし、責任逃れをしようとする責任者もいるかも知れないが、「誰に最後の責任があるのかは分

からない」ということはないのである。

なお、オールジャパン体制で開発してきた原子炉の例では「もんじゅ」以外に、「常陽」も「ふげん」も「高温ガス炉」もあり、プロジェクトは成功しているのである。

**「必ず成功させるということが研究目標になっている。うまくいかなくても頑張って必ず動かしますというふうな、本来の研究開発の在り方からずれてしまったということが一番の問題ではないか」**

これは鈴木教授の発言であるが、これもおかしな発言である。どんな研究であっても、必ず成功させるということを目指して研究者、技術者が開発を進めるのは当たり前のことである。「もんじゅ」の場合には動かして発電することが原型炉としての目的であるので、動かすことに頑張るのも当然である。原子力工学の専門家という立場にも係らず、大学の実験室レベルの研究と一緒に考えているこの発言の方が問題なのである。

**「先週開かれたもんじゅの廃炉を求める市民団体の集会。鈴木さんは、核燃料サイクルそのものの在り方を国民の間で議論すべきと訴えました」**

鈴木教授はいわゆる反原発団体の集会に参加する専門家なのである。「核燃料サイクルそのものの在り方を国民の間で議論すべき」という発言は、当たり前のことのようにであるが、反原発団体の集会で発言しているとなると、核燃料サイクルそのものを止めろと同義と受け止められても仕方がない。世間では推進派と言われてしまうであろうが、科学的データに基づき正しい発言のできる教授の意見は聞かずに、このように反原発派（と疑われても仕方がない）教授だけを公共放送で専門家として発言させるのは明らかに公正、公平性に欠けて問題である。

## 5、まとめ

NHK が制作する原子力に関する番組は、公共放送であるにも係らず、公正、公平性に欠けた番組がほとんどである。

昨年 12 月 8 日に放映された「NHK クローズアップ現代 “夢の原子炉” はどこへ～もんじゅ“失格” 勧告の波紋～」も問題ある番組であった。

「もんじゅ」の保全不備に対する NRA の勧告には筆者の意見<sup>(注1)</sup><sup>(注3)</sup>以外にも批判がある<sup>(注6)</sup>が、それにも係らず、NRA に対する批判については番組ではまったく触れずに、「もんじゅ」、JAEA 側のみが問題であると一方的に決めつけた番組を制作している。

真実を視聴者に伝えるという公共放送、報道者としての使命など無視して、予め、原発、「もんじゅ」、JAEA は悪というシナリオを作り、それに合わせて都合の良い専門家だけを出演させ、シナリオに沿った発言をさせた番組になっている。

当会ではこれまでも多くの抗議と要望を NHK に提出してきた<sup>(注2)</sup><sup>(注7)</sup>が、反省も改善もまったくと言って良いほどなされていない。

放送倫理規定（放送倫理基本綱領）を遵守するという義務を守らず、公正、公平性に欠けた番組を制作し続ける公共放送の NHK に、我々国民は、本当に受信料を支払う義務が

あるのかと考えてしまう。

以上

(注1) 私の意見「原子力規制委員会と『もんじゅ』」2015.12.8

(注2) 「NHK スペシャル『メルトダウン File.5 知られざる大量放出』への抗議と要望」エネルギー問題に発言する会、日本原子力学会シニアネットワーク連絡会、エネルギー戦略研究会、2015.2.1 他

(注3) 私の意見「原子力規制委員会と『もんじゅ』(その2)」2015.12.15

(注4) 「もんじゅの判定、工学者からの疑問」奈良林直、GEPR、2016.1.12

(注5) 「米国における原子力規制と連邦議会による監視機能」電気事業連合会、2013.5.29

(注6) 「高速増殖炉継続で日本の国益を守れ」櫻井よしこ、週刊新潮、2015.11.26

「原子力規制委員会による勧告権の濫用は許されない～『もんじゅ』を巡る文科省への勧告は不当～」原子力国民会議ニューズレター第38号、2015.12.18

「原子力規制委のもんじゅへの勧告、財産権を奪う憲法違反の疑い」東田八幡、GEPR、2015.12.21

「新聞・テレビが全く報じない『もんじゅ』と『規制委員会』の真実」金子熊夫、奈良林直、櫻井よしこ、月刊WiLL2月号WEB版、2015.12.21

「もんじゅの判定、工学者からの疑問」奈良林直、GEPR、2016.1.12

(注7) 「NHK番組『原発解体～世界の現場は警告する』について」エネルギー問題に発言する会、日本原子力学会シニアネットワーク連絡会、エネルギー戦略研究会、2009.10.27

「追跡！真相ファイル『低線量被ばく 揺れる国際基準』への抗議と要望について」エネルギー問題に発言する会、日本原子力学会シニアネットワーク連絡会、エネルギー戦略研究会、2012.1.12

「NHKの『原発再稼働』報道への抗議と要望」エネルギー問題に発言する会、日本原子力学会シニアネットワーク連絡会、エネルギー戦略研究会、2014.9.21